

は　じ　め　に

東日本大震災から２年余り過ぎ、世の中では、再生や再興といった「再」という文字が、多くみられています。被災地を再生させる、再興させることに、異議を唱える者はいないと思います。ただ、昔の姿に戻す、以前の地域に戻すというのは、少し違うのではないのでしょうか。被災地は、前々から、過疎や高齢化などの問題を抱えていました。地域の再生には、被災された地域を、新しく再生させるという「新しい視点」が必要だと思います。

印旛健康福祉センターは、社会づくりの中の地域の公衆衛生業務と福祉業務を担っておりますが、その業務を遂行するためには、被災地の再生と同様に地域をよりよくしていくための「新しい視点」が必要だと思います。当センターでは、そのような視点を持って、業務に取り組んで参りました。

平成２４年度の主な事業としては健康危機管理に力を入れております。結核・感染症対策では、管内の病院において、結核の多発事例が発生し、専門家会議を開催して対応致しました。結核は決して過去の病気ではありません。

また、災害時の医療体制を構築するために、印旛地域災害医療対策会議を立ち上げ、地域災害医療コーディネーターを決定しました。これによって、平時から、地域の災害時医療を考えていく仕組みができました。

このほか、自殺対策として、かかりつけ医と精神科医の連携を進めていく取り組みを進めています。また、地域や職場におけるメンタルヘルスケアにも力を入れて取り組んで参りました。

ここに平成２４年度の事業年報をお届けいたします。当センターの事業にご理解をいただき、ご活用いただければ幸いです。

平成２５年　９月

印旛健康福祉センター長　　中村恒穂